

## ■ 今月のメッセージ(平成 21 年 8 月)

日本銀行富山事務所長  
水上 誠一

景気の動向をみると、生産・輸出が、中国向けを中心に確かに持ち直しているわけですが、人々の景気実感からすると、一番身近な雇用・所得が悪化を続けているのに、どこが持ち直しなのか、と思われるでしょう。

実は、各企業レベルの生産は、今年の1～3月にゼロから通常の3割といった異常な水準まで落ち込み、その後、一部の業種を除き、通常の6～7割といった水準に漸く達したという段階なのです。ですから、大半の企業の皆様は、仕事が十分になく利益も出ない中、政策的な援助を受けながら雇用を維持し（いわゆる企業内失業）、給料を支払うという厳しい状況にあるのです。

このため、雇用の・所得の回復に繋がるには長い道のりが必要です。ただ、「それならせつせと貯蓄して儉約しよう」と考えるのはチョット待って下さい！国民全員が貯蓄してモノを買わない状況を想像してみましょう。直ちに企業の生産はストップし企業は次々と消え、経済は破綻します。しかも、買えるモノが少なくなるので、値段が上がり、折角貯蓄したお金の価値も急落します。

「過ぎたるは及ばざるが如し」と言いますが、適切な貯蓄・消費のバランスをとり、良い製品に対しては、その企業を応援する気持ちで、賢い消費をしていくことが景気回復のために必要なのです。皆さんが、GDP（国内総生産）の6割を占める「個人消費」の担い手であり、日本の新産業を生み出す力さえある、ということを実感してみると、日々の買物も少し違って見えませんか。